

令和 6 年 5 月 17 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K20552

研究課題名（和文）アフリカにおける多民族社会成立の解明 地方行政における伝統的権威の裁量に着目して

研究課題名（英文）Clarifying realization process of multi-ethnic society in Africa: Focusing on discretions of traditional authorities in the local administration

研究代表者

原 将也（Hara, Masaya）

神戸大学・人間発達環境学研究科・助教

研究者番号：00823147

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、植民地期以降のザンビア北西部において地域の統治に関わる伝統的権威に着目し、多民族社会が成立する要因を実証的に検討し、共生社会に資する統治構造を探求してきた。対象とするカオンデ社会では、伝統的権威であるチーフが行政や司法の権限をもち、その意向が地域社会に影響していることが明らかになった。このチーフの役割や位置づけは、植民地期に確立され、変化しながら現在まで残ったものであった。カオンデ社会ではチーフが地域の実情を把握したうえで裁量を発揮しており、地域の統治について考えるときには、チーフと住民の関係性やチーフ個人の性格など、明文化されない地域の文脈を考慮する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

サブサハラアフリカにおいて、植民地期に確立された伝統的権威の権力や彼らによる統治は、独立後も保持された。本研究で取り上げたザンビアでは、現在までチーフが地域社会に大きく影響を与えている。チーフの民族を中心とした地方行政が執り行われ、国政選挙の結果にも大きく反映される。チーフの経てきた歴史や住民との関係性、チーフ個人の性格や人脈など、明文化されないチーフにまつわる事象が、地域社会を規定していることがわかった。この明文化されない地域的文脈を重要視することで、近年頻発する集団間の衝突や紛争を抑止する多民族社会の形成に大きく貢献することができる。

研究成果の概要（英文）：This study clarifies factors of realization of multi-ethnic societies by focusing on traditional authorities in Northwestern Zambia after the colonial period. The study aims to explore the structure of local governance to contribute to realization of co-existence societies. The chiefs who are traditional authorities have the power of local administration in the Kaonde society. And the prejudices of local chiefs may have also affected community development. During the colonial period, the government created the positions and roles of chiefs. The study demonstrates that the chiefs who understood the circumstances of their own territories well played important roles in the local governance. It is important to consider the contexts of the area which are not put in the legal system such as the relationships between the chiefs and residents, the characters of chiefs, when we consider the local governance in Africa.

研究分野：地域研究

キーワード：サブサハラアフリカ ザンビア 北ローデシア 伝統的権威 間接統治 地域的文脈 移入 明文化

1. 研究開始当初の背景

サブサハラアフリカ諸国では、国内政治と特定の民族が結び付き、政治的な暴動が大きな衝突、紛争に発展することがある。政治行動が特定の権力者の民族に偏り、その支持者も同じ民族になる傾向が強くなってしまふことがあり、権力者が意図していなかったとしても、主流派とそれ以外の民族集団のあいだで衝突が生じる可能性がある。またアフリカ諸国では、伝統的権威が入びとの暮らしのなかに浸透し、政治的、社会的に重要な存在となっており、その影響力は公式、非公式に保たれている (Herbst 2014)。それゆえに、植民地期以降現在まで、地方の統治にあたっては、伝統的権威がつねに影響を及ぼし、ときに活躍してきた (Kyed and Buur 2007; Chigwata 2015)。

本研究で取り上げるザンビアでは、イギリスによる間接統治のもと、伝統的権威であるチーフが植民地行政の末端に組み込まれ、地方行政や地域開発、司法などを担った。現在でもチーフを中心に地方が統治され、地域によってはチーフの民族を中心とした地方行政が実施されている。こうした傾向は、国政選挙の結果にも地域・民族差として反映され (Beardsworth 2020)、大規模な衝突や紛争に発展する危険性をはらんでいる。

1990年代以降に、国際社会や援助ドナーが条件として求めた地方分権化において、チーフが注目され、中央政府の担えない地方の統治に積極的に関与するようになった。チーフは地域開発プロジェクトの橋渡し役を務め、地方議員や国会議員の選出にも関与を強めるようになった。こうしたチーフの地方の統治への関与は、チーフをはじめとした地方の一部の権力者に分権化のもたらす資源が流れ、不透明な恩顧主義にもとづいて関係者に分配され、濫用される危険性があることが指摘されている (Ubink 2008; 大山 2015)。その一方で、地域をよく知るチーフが地域の実態に合わせた地方行政を実践するという指摘も存在する (Logan 2009)。いずれにしても、今日のアフリカの多民族社会について論じるうえで、現在まで地方で中心的な役割を担う伝統的権威 (チーフ) に着目し、社会を捉える必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、植民地期以降のザンビア北西部を取り上げ、間接統治のもと権力が強化された伝統的権威であるチーフに着目し、その地域の統治の実態から多民族社会が成立する要因を実証的に検討し、共生社会に資する統治構造を探ることを目的とする。対象とするのはザンビア北西部のカオンデという民族のチーフ C 領であり、多くのカオンデ以外の民族の移入者を受け入れている。ザンビアには 73 民族が暮らすとされ、多くの地域では民族ごとに村が形成される。チーフ C 領には複数の民族が混住しており、そこでは大規模な紛争も生じていない。

チーフ C 領では、地域のリーダーであるチーフが地域の実情を理解したうえで、民族間の衝突を避けるようふるまっている可能性があり、このチーフの裁量による柔軟な対応が多民族社会の成立に関係しているかどうか、実証的に検討する。

3. 研究の方法

本研究では、「地方行政におけるチーフの役割」「チーフの裁量と他民族の受け入れ」「住民によるチーフの評価」の 3 点を具体的な研究内容として設定した。地方行政におけるチーフの役割に関しては、チーフの側近や各区、村長に対して聞き取り調査を実施した。また植民地期の行政については、過去の資料を入手する必要があり、ザンビア国立公文書館の資料を分析するととも

に、イギリスの公文書館や図書館で資料を収集した。チーフの裁量と他民族の受け入れに関しては、実際にチーフC領に移入してきた住民と受け入れた村長に対して、移入の経緯について聞き取った。住民によるチーフの評価に関しては、地域住民に対して聞き取り調査を複数回実施するとともに、チーフが関わる調停やイベントなどに出席し、観察することで、住民の反応を確認した。

4. 研究成果

北ローデシア（現在のザンビア）は、1924年までイギリス南アフリカ会社（British South Africa Company: BSAC）によって直接統治された。BSACは統治以前より存在した集団の長を伝統的権威、すなわちチーフとして認定し、それぞれが治める領域を規定した。このことにより、チーフはBSACや行政官、イギリス本国と地域住民とのあいだをつなぐ仲介役となった。BSACはチーフに対して決まった額の補助金を支払い、地域住民のチーフと村への帰属についても規定した。

BSAC期に設置された原住民統治機構は、1924年以降にイギリスの保護領となった後にも、地方の統治をつかさどる機関として機能した。チーフが原住民統治機構を統括し、アフリカ人のあいだで法や統治を維持し、州政府によって管理された。1936年の原住民統治機構令によって民族全体をまとめるパラマウント・チーフ、チーフ、サブ・チーフが公式に定義された。またチーフは、土地と住民の居住形態を管理した。

植民地期の資料収集と分析より、北ローデシアでは植民地期には地域や民族によって社会構造に違いがあったにもかかわらず、植民地統治者がチーフの地位を一律に定め、チーフは各地域で植民地行政の末端を担うことになったことが明らかとなった。植民地統治者はチーフを利用して地方行政システムを構築し、アフリカ人を管理しようとしたが、逆にそれは地方行政がチーフの動向に左右される側面をつくりだしたのでもあった。

現在でもチーフは、植民地期に確立された地方行政における役割を引き継いでいる部分が多く、チーフの役割は公式にザンビア政府によって定められている。また政府や国会議員がチーフと連携して地域開発プロジェクトを実施することもあり、国家とチーフはザンビア人の暮らしのなかで社会的に密接につながった存在である。

カオンデのチーフC領では、植民地期に複数の民族が移入し、多民族社会が形成された。1940年代に、ポルトガル領西アフリカから徒歩でチョークウェの人びとが移入してきた。それ以降、チョークウェに限らず、ルンダやルバレ、ルチャジといった民族の人びともチーフC領に到達し、受け入れられていた。彼らはチーフと謁見したのち、正式に移入を認められると、居住地や畑を割り当てられた。カオンデ以外の民族であっても、自身が村長となって村を創設することが許されていた。

こうしたチーフの民族以外の移入者は年々増加しており、現在までさまざまな人びとが移入している。2023年には、新たにトンガという民族の人びとを受け入れていた。トンガはおもにザンビア南部州に暮らす人びとで、多くの家畜を飼養し、農牧複合の生業を営むことで知られている。チーフC領に移入してきた人びともまた、多くの家畜を引き連れ、放牧地と畑を求めてやってきた。彼らはチーフCから、地域の中心部から離れた未利用地を割り当てられ、村を新設していた。チーフC領では、植民地期より数世代にわたって他民族を受け入れ、居住を許しており、各時代のチーフCが地域の実情を把握し、その裁量を発揮してきたといえる。

チーフC領の住民の多くは、おおむねチーフCに対して好意的である。住民にとって、チーフは自身の暮らしを見守り、庇護してくれる存在であり、直接的な利益がなくとも、チーフの

存在は重要であるというように評価していた。この傾向は、ほかのザンビア地域でも報告されており（大山 2015）、チーフは地域住民にとって密接な存在である。チーフのことをあからさまに否定するような意見を聞くことはなかったが、先述したトンガの移入に関して調査するなかで、チーフに対する異なる評価を垣間見ることがあった。

地域外から来たトンガの移入希望者は、土地の分配を受ける際に、チーフに対して家畜や金銭を贈与していた。ごく一部の住民は、このお礼の授受について、チーフが自身の権力を利用して個人的な利益を得ていると捉え、こころよく思っていないことがわかった。日常生活の安寧に感謝して、チーフに対して収穫物や日用品などの貢物を送ることは、一般的な行為である。しかし地域外とのかかわりの場合には、便宜の供与、チーフの権力の濫用として捉えられ、住民によるチーフの評価は下がる。こうした事例は他地域でも報告されており（van Binsbergen 1999; 大山 2015）、チーフが地域を統治するうえで、その権力の行使について、地域住民の目が不正の抑止力となりうることが明らかとなった。

本研究では、植民地期に植民地統治者の負担を軽減する目的で確立されたチーフが、現在までザンビアの地方統治において重要な役割を果たしている実態を明らかにした。本研究で取り上げたカオンデ社会のように、チーフが地域の実情に合わせて自身の裁量を発揮し、地域社会の平穏を保つこともある。その一方で、チーフが権力の濫用者となる／みなされることもある。チーフの役割と活動は、国家が想定するような全国一律で定められるものではなく、チーフ創出の歴史的経緯、チーフと地域住民との日常的な関係性や住民からの信頼の程度、各社会の規範、チーフ個人の人柄や経験、人脈といった、法制度で明文化されない地域的文脈に依存している。その意味で、アフリカの多民族社会、地域社会の安定について考える際には、地域の統治を担う伝統的権威の存在を無視することはできないのである。

参考文献

- Beardsworth, N. 2020. From a 'regional party' to the gates of state house: The resurgence of the UPND. In Banda, T., Kaaba, O., Hinfelaar, M. and Ndulo, M. eds. *Democracy and Electoral Politics in Zambia*. Brill. pp. 34-68.
- Chigwata, T.C. 2015. Decentralization in Africa and the resilience of traditional authorities: Evaluating Zimbabwe's track record. *Regional & Federal Studies* 25: 439-453.
- Herbst, J. 2014. *States and Power in Africa: Comparative Lessons in Authority and Control, New Edition*. Princeton University Press.
- Kyed, H. M. and Buur, L. 2007. Introduction: Traditional authority and democratization in Africa. In Buur, L. and Kyed, H. M. eds. *State Recognition and Democratization in Sub-Saharan Africa: A New Dawn for Traditional Authorities?* Palgrave Macmillan. pp. 1-28.
- Logan, C. 2009. Selected chiefs, elected councilors and hybrid democrats: Popular perspectives on the co-existence of democracy and traditional authority. *The Journal of Modern African Studies* 47: 101-128.
- Ubink, J. 2008. *Traditional Authorities in Africa: Resurgence in an Era of Democratisation*. Leiden University Press.
- van Binsbergen, W. M. J. 1999. Nkoya royal chiefs and the Kazanga cultural association in Western Central Zambia today: Resilience, decline, or folklorisation? In van

Rouveroy van Nieuwaal, E. A. B. and van Dijk, R. eds. *African Chieftaincy in a New Socio-Political Landscape*. LIT Verlag. pp. 97-133.

大山修一 2015. 慣習地の庇護者か、権力の濫用者か ザンビア 1995 年と地方の土地配分におけるチーフの役割. *アジア・アフリカ地域研究* 14: 244-267.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 原 将也	4. 巻 97(1)
2. 論文標題 ザンビアの地方行政におけるチーフの役割に関する検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 地理学評論	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 原 将也	4. 巻 130
2. 論文標題 「第1回若手交流セミナー」開催報告	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本熱帯生態学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 原 将也	4. 巻 125
2. 論文標題 ザンビア北西部における生業からみた多民族農村の暮らし	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本熱帯生態学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 井口克郎・岩佐卓也・太田和宏・原 将也・加戸友佳子・浅野慎一	4. 巻 15(2)
2. 論文標題 斎藤幸平『人新世の資本論』集英社新書をどう読むか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 189-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81013213	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yamashina Chisato, Hara Masaya, Fujita Tomohiro	4. 巻 59
2. 論文標題 The effects of human disturbance on the species composition, species diversity and functional diversity of a Miombo woodland in northern Malawi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 African Journal of Ecology	6. 最初と最後の頁 216-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/aje.12798	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原 将也	4. 巻 65(8)
2. 論文標題 銅とトウモロコシからみるザンビア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 102-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hara Masaya	4. 巻 28
2. 論文標題 Coexistence of multiple ethnic groups practicing different slash-and-burn cultivation systems adapted to field conditions in miombo woodlands in northwestern Zambia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Tropics	6. 最初と最後の頁 75-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3759/tropics.MS19-01	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原 将也	4. 巻 95
2. 論文標題 書評「島田周平・上田 元編：世界地誌シリーズ8：アフリカ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 33-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 ザンビアにおける使用済みプラスチックの流通
3. 学会等名 日本アフリカ学会第60回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 アフリカ・ミオンボ林帯における木材生産の実態
3. 学会等名 第33回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 ザンビアにおける使用済みプラスチックの流通
3. 学会等名 アジア経済研究所「東南アジアにおける海洋プラスチック問題と対策」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 アフリカ・ザンビア農村の暮らしの変遷 焼畑農耕とトウモロコシ栽培
3. 学会等名 2022年度兵庫地理学協会1月特別例会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 北ロデーシアにおける地方行政と多民族農村の形成
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 アフリカ農村で豊かさと地域開発について考える
3. 学会等名 2021年度立正地理学会熊谷例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 ザンビア北西部における生業からみる多民族の共生
3. 学会等名 日本熱帯生態学会第25回吉良賞奨励賞受賞記念講演（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hara Masaya
2. 発表標題 The migration process and contributions of guarantors for immigrants in a multi-ethnic community in northwestern Zambia
3. 学会等名 34th International Geographical Congress（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 ザンビア北西部における生業と移住からみた多民族地域
3. 学会等名 社会環境セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 ザンビア北西部における多民族地域の形成過程：他民族の移入に着目して
3. 学会等名 2020年日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原 将也
2. 発表標題 ザンビアの都市出身者による出身村の創出
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Takahashi Motoki, Oyama Shuichi and Ramiarison Aime Herinjatovo	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 430
3. 書名 Development and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy (The potential created by mobility: Social ties with strangers in the migration history of one family in northwestern Zambia担当)	

1. 著者名 島田周平・大山修一編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 370
3. 書名 ザンビアを知るための55章（第1章、第6章、第14章、第19章、コラム12、第21章、コラム13、第32章、第38章担当）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

神戸大学大学院人間発達環境学研究科教員紹介ページ https://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/staff/%E5%8E%9F%20%E5%B0%86%E4%B9%9F 神戸大学研究者紹介システム https://kuid-rm-web.ofc.kobe-u.ac.jp/profile/ja.c66ee7d4f01ccd53520e17560c007669.html

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関